

『日本経営学会誌』執筆要領

2010年9月2日制定
2019年9月3日改訂
2020年9月2日改訂
2021年9月2日改訂
2022年3月29日改訂
2023年9月5日改訂
2026年9月2日改訂
日本経営学会理事会

本執筆要領は、日本経営学会会員が『日本経営学会誌』への投稿論文を執筆するに当たり注意すべき細目事項について、日本経営学会が別に定める「投稿規定」に則り、まとめたものです。投稿原稿の作成に当たっては、学会ホームページ掲載の「投稿規定」とともに、本執筆要領を参照してください（「投稿規定」は、『日本経営学会誌』各号裏表紙にも記載されています）。

1 原稿の文字数、枚数について

1-1 論文

- 1 原稿は、原則として、文書作成ソフトによって横書きで作成する。
- 2 日本語原稿で投稿する場合、文字数は、行単位によって計算する。投稿時の原稿は、本文、注、図表、文献リストを含めて、A4で全角40字×40行、450-500行、18,000-20,000字とする。査読後の修正原稿は、450-550行、18,000-22,000字とする。
- 3 英文原稿の場合、シングル・スペースで文字サイズを12ポイントとし、12.5枚（6,000語）を基準とするほかは、日本語の場合に準ずる。
- 4 文字数の計算
 - (1) 文字数の計算には、空白行も入れる。章を区切るために前後に1行ずつ合計2行の空白行、節を区切るために前1行の空白行、改行のために行途中から生じる空白もすべて文字数に入れて計算する。
 - (2) 後注と文献リストについては、本文に対して0.64倍で計算する。図表は、原稿行数に換算する。
 - (3) 後注と文献リストの文字数計算については、40字×40行のフォーマットを守り、任意にポイントを小さくしない。

1-2 書評

原則として、6,000字または刷り上がり4頁以内とする。

2 投稿申込書、投稿原稿および論文要旨について

投稿に際しては、以下の要領にて、投稿申込書、投稿原稿および論文要旨を学会誌編集委員長宛にデータにより送付する。

2-1 投稿申込書

- 1 投稿申込書（学会ホームページに掲載）に、論文題名、投稿者の氏名、生年月日、郵便番

号・住所、所属機関、肩書き、電話・FAX、E-mail アドレス（必須）、および1行当たりの文字数（＝40 字）と行数等を記入する。

2 注・図表・文献リストについて上記換算した行数を内数として並記する。

2－2 投稿原稿

- 1 投稿原稿は、その冒頭に、論文題名（日本文、英文）とキーワード5項目を記入し、氏名・肩書き等は絶対に記入しない。
- 2 キーワードは必ず5項目記入すること。項目数を任意に変えない。

2－3 論文要旨

論文要旨の文字数は、日本文の場合はA4で40字×40行（＝1,600字）、1枚程度とする。英文の場合は600語程度とする。

3 項目の区分について

- 1 項目の区分は、次のとおりとする。
大項目 1. 2. 3. 4. ...
中項目 1-1. 1-2. ...2-1. 2-2. ...
小項目 1-1-1. 1-1-2. ...1-2-1. 1-2-2. ...
- 2 「はじめに」、「おわりに」などについても大項目の番号をつける。
- 3 本文中で、各項目を指し示す場合には、大項目は「節」、中項目は直接、その項目記号を使用する。
例：「第1節の最後で述べたように...」、「先に、2.2で触れたように...」

4 文章の表記について

4－1 外国の国名・地名・人名など

- 1 外国の国名・地名・人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ書きとする。
- 2 一般化していない固有の名称（地名・人名・機関名・会社名など）は、初出の箇所に限り、その原語（ただし、ごく特殊な外国語の場合は、それをローマ字表記したものでも可）をカッコ内に付記する。
- 3 読み方がはっきりしない人名・地名は、原綴のままでも可とする。

4－2 外来語・外国の度量衡および貨幣の単位

- 1 外来語・外国の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ書きとする（ただし、漢字圏を除く）。
例：コーヒー、ガラス、メートル、トン、ドル
- 2 ただし、パーセントは記号（%）を使用する。図表中では、一般的な単位（m、g、tなど）を使用する。表記は、1リットルを除いて、ローマン体を用いる。1はイタリックで表記する。

4－3 数字

- 1 数字は、原則として算用数字を使用する。二桁以上の数字は、半角数字で入力する。
- 2 ただし、万以上の数字には、本文中ではコンマを用いず、万・億・兆を用いる。
例：23億500万円、1万2,000人

4-4 英字

英字は、半角で入力する。

4-5 年号

年号は、原則として西暦を使用する。

5 図および表について

- 1 図と表には、表題、そして必要ならば、注、出所、原典などを記入する。
- 2 図、表ともに表題は、表本体の上に「中央揃え」（センタリング）する。表題と図表の本体の間に、単位などを「右寄せ」で記入する。
- 3 図と表は区別し、図および表のそれぞれで通し番号を付す。（図表 1、図表 2 と表記しない）。
- 4 図および表番号の表記の形式は、原則として、「表 2：表の名前」、「図 1：図の名前」とする。（表 2-1、図 11-a、第 1 図、図表 1 などと表記しない）。
- 5 図および表について注記が必要な場合には、出所を示す前に記入し、「左寄せ」する。
- 6 出所や、原典の付記は、注記の後に、左寄せで付記する。出所や出典の具体的な表記方法については、後出の「文献の引用表記について」を参考にする。
- 7 図および表の挿入位置を、論文内に指示し、さらに必要行数を記入する。（行数の計算方法については、「1 原稿の枚数について」を参照する）。
例：「<ここに図 3 を挿入、版面で 10 行分の高さ>」と記入する。

6 注記について

- 1 注記は、原則として、後注とする。割注、簡易注、頭注、傍注、段落注は使用しない。
ただし、本文中で繰り返される同一の引用注などの場合は、本文中に、簡易注による注記も可とする。
- 2 参照した頁については、後注のなかで、あるいは簡易注のなかで、実際に、文献の参照を指示する箇所を明記する。その際、著者のサーネーム、出版年、頁を表記する。
簡易注の例：山田は、次のように述べている。「...」（山田,1964,23 頁）。
- 3 後注には、1）から始まる通し番号を付し、論文の終わりまで、連続した番号にする。
- 4 提出原稿における後注の位置は、本文の後、参考文献の前とする。

7 文献の引用表記について

7-1 著者－出版発行年方式（author-date 方式）

- 1 文献の引用表記は、著者－出版発行年方式（author-date 方式）を用いる。
- 2 論文末に、〈参考文献〉（ゴチ、左寄せ）の項目をたてる。
- 3 アルファベットで表記が可能な外国語文献と日本語文献にまず区別する。
- 4 外国語文献は著者の名前のアルファベット順に配列し、日本語文献は著者の名前のアイウエオ順で配列する。外国語文献から記述する。

7-2 個々の文献の表記

- 1 個々の文献の表記方法は、7-3の表記例に従って表記する。
- 2 同一著者の文献が複数ある場合は、
 - ・発表年順に置く、
 - ・2行目以降も著者名を繰り返す、
 - ・同一著者の同一発表年の文献には出版年の後に a、b、c などの添字をつける。
- 3 個々の文献表記について、2行目以下は、外国語文献の場合は半角3字、日本語文献の場合は全角2字、下げる。

7-3 表記例

7-3-1 邦文文献の表記例

①単行本

著者名（発行年）『書名』（シリーズ名）出版社。

海道ノブチカ（2013）『ドイツのコーポレート・ガバナンス』中央経済社。

②分担執筆論文

執筆者名（発表年）「論文名」編者名『書名（論文集名）』掲載頁，出版社。

百田義治（2007）「企業社会責任（CSR）論と経営学の基本問題—労働・人権の問題を中心として—」日本経営学会編『新時代の企業行動—継続と変化—』（『経営学論集』第77集）pp.17-28，千倉書房。

③雑誌論文

執筆者名（発表年）「論文名」『雑誌名』巻号，掲載頁。

上林憲雄（1999）「情報技術の利用形態とナショナル・カルチャー—作業組織の日英比較—」『日本経営学会誌』第4号，pp.61-73。

7-3-2 欧文文献の表記例

①単行本（邦訳なし）

著者名（発行年）書名【イタリック】，版次，出版地：出版社。

Pfeffer, J. K. and G. R. Salancik (1978) *The External Control of Organizations: A Resource Dependence Perspective*, New York: Harper & Row.

②単行本（邦訳あり）

著者名（発行年）書名【イタリック】版次，出版地：出版社。（訳者名『訳書名』出版社、発行年）

Peters, T. J. and R. H. Waterman Jr. (1982) *In Search of Excellence*, New York: Harper & Row. （大前研一訳『エクセレント・カンパニー 超優良企業の条件（上下）』講談社、1986年）

③編著

編著者名(Ed.)（発行年）書名【イタリック】（版次），出版地：出版社。

Crimp, D. (Ed.) (1988) *AIDS: Cultural Analysis, Cultural Activism*, Cambridge, MA: MIT Press.

④編著に収載された論文

筆者名（発行年）論文名, In 編者名, 書名【イタリック】，掲載頁，出版地：出版社。

Dameron, K. (1974) *The Consumer Movement*, In Aaker, D. A. and G. S. Day (Eds.), *Consumerism: Search for the Consumer Interest*, 33-52, London: Free Press.

⑤雑誌に掲載された論文

筆者名（発行年）論文名,雑誌名【イタリック】,巻（必要な場合は号）：掲載頁.

Tushman, M. L. and R. Katz (1980) External Communication and Project Performance:
An Investigation into the Role of Gatekeepers, Management Science, 26(11): 46-58.

8 締め切り

- 1 レフェリー制のため、投稿は随時受け付ける。
- 2 レフェリーから修正の要求があった投稿原稿については、東西の編集責任者より改めて修正論文の提出依頼があり、その際に修正論文の提出締め切り日、その他修正に関する注意点などの指示がある。

以上